

書道科 学習指導案（略案）

（第2時：行草書の学習で書道字典を活用する）

学校名 埼玉県立ふじみ野高等学校

教諭 市川 将吾

対象 第2学年1.2組 18名

科目 書道Ⅱ

教科書 教育図書

1 単元名：行草書の学習

2 単元について（学習内容の概要）

本単元は課題、空海「風信帖」を臨書するにあたり正しく効果的に表現することをゴールとする。書体が行書と草書なので、まず、誤字を書かないように書道字典を用いて文字調べをし、正しい字形と筆路を確認する。風信帖の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。余白や文字の大きさ、行の流れなどを工夫し、半切紙へ効果的に表現できるようにする。

3 単元の目標及び評価規準

（1）単元の目標

- 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
- 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。
- 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、風信帖の線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。
- 風信帖の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。
- 風信帖の価値とその根拠について考え、その良さや美しさを味わい捉える。
- 行書の古典の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組むようにする。
- 風信帖のよさや美しさを感じ、作品や書の意味、価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組むようにする。

（2）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">• 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。• 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。• 行草書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、風信帖の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">• 風信帖の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。• 風信帖の価値とその根拠について考え、そのよさや美しさを味わっている。	<ul style="list-style-type: none">• 行草書の古典の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。• 風信帖のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。

書Ⅰ・書Ⅰプライマリーブック 指導資料

4 指導計画

時	指 導 内 容 等
1	行草体の古典「風信帖」の把握。 知識構成型ジグソー法（生徒同士が対話を通じて知識を深める協働学習の一つの授業手法）に向けて、グループ分け、プレ記述。
2 (本時)	行草書の学習で書道字典を活用。 書道字典の使い方。活用法。
3	「風信帖」の文字調べとくずし方の確認。
4	半紙の臨書練習
5、6	半切の臨書練習・清書
7、8	半切の臨書清書、押印（自作の姓名印を押印する）

授業のねらい
<p>本時は書道字典の使い方と活用法を身に付ける。具体的には古典の臨書の際、分からない文字を調べる。創作をする際に古典の文字を参考にする。</p> <p>この後、埼玉県令和7年高校2・3・4年用書きぞめ手本「風信帖」を題材とし、半切紙に揮毫する。書道字典を活用し、筆路やくずし方など正確に文字を把握する。</p> <p>次時で「風信帖」の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。また、行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、風信帖の線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。</p>
メインの課題
<p>古典の臨書の際、分からないくずし方の文字があったときどのように調べるかをジグソー活動を通して身に付ける。書道字典を活用できるようにする。</p>
生徒の既有知識・学習の予想
<p>国語辞典を使用したことがある生徒は書道字典（漢字五書体の文字を古典・法帖等から抜き出して掲載した毛筆文字の字典）を引くことができるが、電子辞書しか使ったことがない生徒は難しいと予想する。</p> <p>旧字体や異体字の違いを理解すること、古典名と書人名を区別することが困難であると予想する。</p>
期待する解答の要素
<p>分からない文字があった際に書道字典を使い、普遍的なくずし方を確認する。</p> <p>調べる際に注意することは新字体ではなく、旧字体と異体字で記載されていること。書体は楷・行・草・隸・篆の順番で記載されていること。文字の下に横書きで書かれているのは古典名か書人名であること。</p>
各エキスパート
<p>エキスパートA 旧字体と異体字 書道字典で文字を調べる時に旧字体と異体字で記載されていることを理解する。</p> <p>エキスパートB 古典名と書人名 それぞれの文字の下に横書きで記載されているのは古典名と書人名であることを理解する。</p> <p>エキスパートC 記載されている書体の順序 記載されている漢字五書体の順序が楷・行・草・隸・篆であることを理解する。</p>
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
<p>課題のくずし方を書道字典を用いて確認する。</p> <p>正しい筆路やくずし方を踏まえて、半紙に臨書練習し、基本的な用筆・運筆、風信帖の線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。</p> <p>半切に臨書表現し、風信帖の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫する。</p>
上記の一連の学習で目指すゴール
<p>書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付ける。</p>

5 本時の学習活動

時間	学習活動	支援等
5分 ~8:55	前時の学習内容を想起する	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のプリントを見るよう促す ・授業最初は変更しないようにする ・ジグソーの学習方法を確認する ・2つのグループがあることと座席が あっているかを確認する ・字典のページ数のメモを活用するよ うにする
5分 ~9:00	本時の学習内容の確認 ※プレ記述は前時に行った	本時の活動内容とねらいを理解する ようにする
10分 ~9:10	<エキスパート> エキスパートグループで自分の担当する プリントに取り組む A 旧字体と異体字 B 古典名と書人名 C 記載されている書体の順序	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み状況を観察し、必要に応じ て、声かけや補足説明をする ・ホームグループ（ジグソー班）に行 ったらこの内容は自身しか分かっ ていないので、ちゃんと説明でき るように意識させる声かけをする
3分 ~9:13	ホームグループ（ジグソー班）に移動	自分の持ち物をすべて持って、速やか に移動するようにする
6分 ~9:19	<ジグソー> エキスパートグループで学んだ内容を教 え合う	取り組み状況を観察し、必要に応じ て、声かけや補足説明をする
6分 ~9:25	ホームグループ（ジグソー班）で学習内 容をまとめ、発表用紙にまとめる	書画カメラに投影するので、ペンを使 用し、文字を大きく書くようにする
10分 ~9:35	<クロストーク> 各グループでまとめた内容を全体に発表 する	<声掛けのアドバイス> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者は全体に聞こえるよう大きな 声で話す ・他の人は傾聴する ・発表後は拍手をする ・発表内容に対して質問や全体に考え させるような発問等をする
5分 ~9:40	<ポスト記述> 「授業最後」を行う	今まで学んだことを生かすよう促す

グループの人数や組み方

ホームグループ（ジグソー班）	3人×6グループ
エキスパートグループ	3人×6グループ

6 実践後の振り返り

(1) 生徒の学習の評価（授業前後の変化）

- ① 3名の生徒を取りあげて、同じ生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示した。

生徒	授業前	授業後
1	本を使用して調べる。 教科書でしている字を探し書き下し文を見る。 スマホのカメラアプリで調べる。	字典には現在の新字体ではなく旧字体、異体字で記載されておりそれでも文字が分からなかった場合は文字の下に横書きで記載されている古典名、文字を書いた人物が記載されているため調べる際に覚えておくと字典で確認することができる。また、記載されている書体の順番を覚えておくと書体が似ているものを区別することができ参考にすることができる。
2	辞典で書き方を調べる。	字典の旧字体と異体字に気をつけながら調べて文字がわからない場合は古典名と書家の名前や書体で調べる。
3	辞典を使って調べる。 インターネットを使って調べる。	書道字典

- ② 授業前、授業後の生徒が答えられたことを先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べ、生徒の学習の成果を検討した。

書道字典を活用することは想定していた。しかし、想定と異なったことは2番の生徒の授業後の解答の後半の「文字がわからない場合は古典名と書家名や書体で調べる。」は調べる際の注意点であり、調べ方として受け取られてしまった。

(2) 生徒の学習の評価（学習の様子）

生徒の学習の様子を事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことを挙げた。

エキスパート活動ではよく資料を読み込んでいた。分からないという混乱はなかった。自身が学んだ内容が正しいかグループのメンバーと確かめ合っていた。ジグソー活動では他のメンバーから教わらないと答えられない問を2つ設定したので、答えるために熱心に伝え合っていた。

(3) 授業の改善点

生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、今回の授業の改善点を挙げた。

- ① 授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）それぞれの設定と既有知識の見積もりは適切であった。
- ② 課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）調べ方と調べる際の注意点が混同してしまっていた。もしくはA、B、Cのエキスパート活動の資料のいずれかを言えばよいと答えるなど若干ゴールとそれてしまった生徒がいた。改善点は書道字典の索引の仕方は授業者から伝え、エキスパートの資料に調べ方の注意点であることを明記することである。

書道Ⅱ 行草書の学習「風信帖」半切紙への臨書に向けて

年 組 番 氏名

手順 ① 「授業最初」を行う。

② エキスパート活動▼ジグソー活動▼クロストーク活動を行う。(別プリント)

③ 学んだことを生かして「授業最後」を行う。

課題 分からない字を確かめるためにはどうしたら良いか(自由記述)

授業最初

授業最後

メモ

A

旧字体と異体字を知る

旧字体（きゅうじたい）とは、戦前の日本で使われていた漢字の字体のことです。例えば、「國」（国）や「學」（学）などが旧字体です。これらの字体は、戦後の漢字改革によって簡略化され、現在の新字体（しんじたい）に置き換えられました。

異体字（いたいじ）とは、同じ漢字に対して異なる形の字体のことを指します。例えば、「龍」と「竜」どちらも「りゅう」と読み、同じ意味を持ちます。

字典では新字体ではなく、旧字体と異体字で記載されています。例えば、「国」を調べると「國」と記載されています。「国」が載っていないわけではありませんので、調べる際には気をつけましょう。

ワーク1 右の文章を読んでBとCの人に教えられるようしましょう。

ワーク2 ジグソー活動で教え合おう。

Bの人に教わりながら取り組もう

問 文字の下に横書きで記載されているのは何か。またそれをどのように活用しますか。

Cの人に教わりながら取り組もう

問 文字が記載されている書体の順番はどのようになっていますか。

B

古典名と書人名を知る

文字の下に横書きで記載されている名前は、古典名またはその文字を書いた人の名前です。古典とは、昔の有名な書道家が書いた作品のことです。例えば、中国の王羲之（おうぎし）が書いた「蘭亭序」や日本の空海（くうかい）が書いた「風信帖」などが有名です。これらの作品は、書道の基本や美しさを学ぶための大切な手本となります。日常の学習において、古典名と書人名を覚えるよう心がけましょう。なぜなら、古典名を知らないと臨書の際に分からない文字があつた場合に字典で確認することができないからです。

ワーク1 右の文章を読んでAとCの人に教えられるようにしよう。

ワーク2 ジグソー活動で学び合おう。

Aの人に教わりながら取り組もう

問 「国」や「学」などの漢字を書道字典で調べる際に気をつけなければならないことは何ですか。

Cの人に教わりながら取り組もう

問 文字が記載されている順番はどのようになっていますか。

C

記載されている五書体の掲載順序を知る

書道字典に記載されている文字の書体は、楷書、行書、草書、隸書、篆書の順に並んでいます。行書は、点画がつながることが多く、流れるような美しさがあります。草書は、さらに崩した書体で、速く書くために点画が省略されています。とても自由な形で書かれるので、読むのが難しいこともあります。行書と草書は要素が似ていて、区別が難しい文字もあるため、調べたい文字のページを開いたら、各書体を確認してください。古典や書人の書体を覚えていると区別する参考になります。日常の学習で古典や書人の書体を覚えるようにしましょう。

ワーク1 右の文章を読んでAとBの人に教えられるようにしましょう。

ワーク2 ジグソー活動で教え合おう

Aの人に教わりながら取り組もう

問 「国」や「学」などの漢字を書道字典で調べる際に気をつけないといけないことは何ですか。

Bの人に教わりながら取り組もう

問 文字の下に横書きで記載されているのは何か。また、それをどのように活用しますか。

書道Ⅱ 行草書の学習「風信帖」半切紙への臨書に向けて

年 組 番 氏名

手順 ① 「授業最初」を行う。

② エキスパート活動▼ジグソー活動▼クロストーク活動を行う。(別プリント)

③ 学んだことを生かして「授業最後」を行う。

課題

分からない字を確かめるためにはどうしたら良いか(自由記述)

授業最初

授業最後

分からない文字があった際に書道字典を使い、普遍的な崩し方を確認する。
調べる際に注意することは新字体ではなく、旧字体と異体字で記載されていること。書体は楷・
行・草・隸・篆の順番で記載されていること。文字の下に横書きで書かれているのは古典名か
書人名であること。

メモ

A

旧字体と異体字を知る

旧字体（きゅうじたい）とは、戦前の日本で使われていた漢字の字体のことです。例えば、「國」（国）や「學」（学）などが旧字体です。これらの字体は、戦後の漢字改革によって簡略化され、現在の新字体（しんじたい）に置き換えられました。

異体字（いたいじ）とは、同じ漢字に対して異なる形の字体のことを指します。例えば、「龍」と「竜」どちらも「りゅう」と読み、同じ意味を持ちます。

字典では新字体ではなく、旧字体と異体字で記載されています。例えば、「国」を調べると「國」と記載されています。「国」が載っていないわけではありませんので、調べる際には気をつけましょう。

ワーク1 右の文章を読んでBとCの人に教えられるようしましょう。

「**國**」（国）や「**學**」（学）などが**旧字体**です。字典では**新字体**ではなく、**旧字体と異体字**で記載されています。

ワーク2 ジグソー活動で教え合おう。

Bの人に教わりながら取り組もう

問 文字の下に横書きで記載されているのは何か。またそれをどのように活用しますか。

文字の下に横書きで記載されている名前は、**古典名**またはその**文字**を書いた人の**名前**

古典の臨書の際に分からない**文字**があった場合に字典で確認する

Cの人に教わりながら取り組もう

問 文字が記載されている書体の順番はどのようになっていますか。

記載されている書体の順序は**楷書**、**行書**、**草書**、**隷書**、**篆書**

B

古典名と書人名を知る

文字の下に横書きで記載されている名前は、古典名またはその文字を書いた人の名前です。古典とは、昔の有名な書道家が書いた作品のことです。例えば、中国の王羲之（おうぎし）が書いた「蘭亭序」や日本の空海（くうかい）が書いた「風信帖」などが有名です。これらの作品は、書道の基本や美しさを学ぶための大切な手本となります。日常の学習において、古典名と書人名を覚えるよう心がけましょう。なぜなら、古典名を知らないと臨書の際に分からない文字があった場合に字典で確認することができないからです。

ワーク1 右の文章を読んでAとCの人に教えられるようにしよう。

文字の下に横書きで記載されている名前は、古典名またはその文字を書いた人の名前

古典の臨書の際に分からない文字があった場合に字典で確認する

ワーク2 ジグソー活動で学び合おう。

Aの人に教わりながら取り組もう

問 「国」や「学」などの漢字を書道字典で調べる際に気をつけなければならないことは何ですか。

「国」（国）や「学」（学）などが旧字体です。字典では新字体ではなく、旧字体と異体字で記載されています。

Cの人に教わりながら取り組もう

問 文字が記載されている順番はどのようになっていますか。

記載されている書体の順序は楷書、行書、草書、隸書、篆書

C

記載されている五書体の掲載順序を知る

書道字典に記載されている文字の書体は、楷書、行書、草書、隸書、篆書の順に並んでいます。行書は、点画がつながることが多く、流れるような美しさがあります。草書は、さらに崩した書体で、速く書くために点画が省略されています。とても自由な形で書かれるので、読むのが難しいこともあります。行書と草書は要素が似ていて、区別が難しい文字もあるため、調べたい文字のページを開いたら、各書体を確認してください。古典や書人の書体を覚えていると区別する参考になります。日常の学習で古典や書人の書体を覚えるようにしましょう。

ワーク1 右の文章を読んでAとBの人に教えられるようにしましょう。

記載されている書体の順序は楷書、行書、草書、隸書、篆書

ワーク2 ジグソー活動で教え合おう

Aの人に教わりながら取り組もう

問 「国」や「学」などの漢字を書道字典で調べる際に気をつけなければならないことは何か。

「国」(国)や「学」(学)などが旧字体です。字典では新字体ではなく、旧字体と異体字で記載されています。

Bの人に教わりながら取り組もう

問 文字の下に横書きで記載されているのは何か。また、それをどのように活用しますか。

文字の下に横書きで記載されている名前は、古典名またはその文字を書いた人の名前

古典の臨書の際に分からない文字があった場合に字典で確認する